マウスHSV-１初感染顔面神経麻痺モデルにおける一酸化窒素（NO）の関与とEdaraboneの投与効果

河野　尚[1)]　羽藤直人[2)]　菰渕勇人[2)]
脇坂浩之[2)]　高橋宏尚[2)]　暁　清文[2)]
１）回生病院耳鼻咽喉科　　２）愛媛大学耳鼻咽喉科

一酸化窒素（NO）は，生体内においての生理的な情報伝達のみならず，感染・炎症の過程にも関与することが解明されつつある．ベル麻痺の病因の一つに単純ヘルペスウイルスＩ型（HSV-１）による神経炎があるが，このHSV-１性神経炎においてもNOが関与する可能性がある．我々はマウスの耳介にHSV-１を接種することで作製したベル麻痺のモデル動物を使用し，種々の検討を行ってきた．今回このモデルの顔面神経内NOxの測定，顔面神経内の誘導型NO合成酵素（iNOS）の免疫組織学的検討を行い，また抗酸化剤Edaraboneの投与実験を行った．結果，NOxの測定では麻庫発症中の麻痺側NOxの増加を，免疫染色では麻痺マウスの麻痺側顔面神経でのiNOSの発現を，投与実験ではEdarabone投与により麻痺発現が抑制される傾向を認めた．

ウイルス性神経障害とNOとの関連について考察し報告する．